

授業科目名(英文名)bbb / Course title	知的財産法 / Intellectual Property Law Law of Intellectual Property				
担当教員(所属) / Instructor	田端 俊英(工学部工学科知能情報工学コース), 赤坂 彰彦(非常勤講師), 大谷 嘉一(非常勤講師)				
授業科目区分 / Category	大学院共通科目				
地域課題解決型人材育成プログラム科目 / COC+Course	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2022年度 / Academic Year 第2ターム / Term 2 他	対象所属 / Eligible Faculty			
時間割コード / Registration Code	950080	対象学年 / Eligible grade	1年 ,2年	単位数 / Credits	1単位
ナンバリングコード / Numbering Code	2X1-36075-0100				
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact					
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours					
Moodleコース統合時間割コード / Moodle course join Registration Code					
Moodleコース登録教員名 / Moodle course registered Instructor					
MoodleコースURL / Moodle course URL					
各種教育プログラム1 / Various Educational programs1					
各種教育プログラム2 / Various Educational programs2					
各種教育プログラム3 / Various Educational programs3					
各種教育プログラム4 / Various Educational programs4					
各種教育プログラム5 / Various Educational programs5					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日 2021/12/28				
この科目は、オンデマンド形式(各自で授業動画・資料等を閲覧し受講)により授業を実施する。					
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学修目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
理工系出身者の多くが研究開発に従事、他の分野においても各種知的財産を抜きにはビジネス構築ができない時代となった。我が国の国家戦略としての知財の重要性を理解し、各自の今後の活動に活かすことのできるツールとして知的財産についての理解を深める。					
達成目標 / Course Goals					
知的財産の基本的な知識と技術を修得し、社会における知的財産と産業における産業財産権の意義や役割を理解、産業の発展を図り活用する能力および知的財産創造サイクルを回す考え方を育成する。					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					

日々知的財産を扱う弁理士及び企業の知財担当者を講師に基礎から実践まで幅広く触れることで知財を身近に感じ、自らの活動に活かす。

第1回：

知的財産権の基礎（概要）大谷特許事務所 大谷弁理士

知的財産制度の概要、特に理工系で関わりの深い特許権の位置づけと他の知的財産権との関わりを理解する。

第2回：

知的財産権の基礎（特許権・実用新案権等）大谷特許事務所 大谷弁理士

発明と特許、考案と新規性との関係を知り、有効な特許とは何かを理解する。

第3回：

知的財産権の基礎（意匠権・商標権等、著作権）大谷特許事務所 大谷弁理士

産業財産権の周辺でビジネスを支える権利として意匠権、商標権を知ることで、知的財産権を総合的に理解する。

第4回：

知的財産権の基礎（グローバルな権利としての知財）大谷特許事務所 大谷弁理士

グローバルなビジネス展開を支える権利としての知的財産権を理解する。

第5回：

知的財産権の実際（明細書）富士フイルム富山化学(株) 赤坂弁理士

権利化に必須な特許明細書の構成、内容を知り、出願に必要な情報の理解を深める。

第6回：

知的財産権の実際（先行技術調査・検索）富士フイルム富山化学(株) 赤坂弁理士

特許出願目的以外でも有用かつ重要な専攻技術調査を知り、各自の研究目的を明確にする姿勢を身につける。

第7回：

知的財産権の実際（不正競争防止法等）富士フイルム富山化学(株) 赤坂弁理士

権利主張同様に重要な他社の権利を侵害することの無いよう留意すべきことを理解する。

第8回：

知的財産権の実際（企業事例）田端 俊英

企業における知的財産活用の事例を紹介し、業界による違い・特徴を理解する。理解度に関するレポートを課す。

授業時間外学修（事前・事後学修）/ Independent Study Outside of Class

配付資料や参考書等を基に復習に重点をおいて学習を進めること。また、参考書は、当シラバスで紹介するもののほか、入門レベルから各種あることから、自ら適したものを選択して自学自習を進めることが望ましい。特許情報プラットフォーム（J-PlatPat）等を使って、各自のテーマで検索し特許情報に触れ、検索方法の習得と特許情報の理解を学修する。

授業で学習した「特許検索システムJ-PlatPat」に自宅等でインターネットからアクセスし、特許検索方法を各自体験・理解しそれを基にレポート、提出する。

国家知財戦略と対応法の関係を理解し、知的財産創造サイクルの回し方も考察する。

キーワード / Keywords 知的財産、産業財産権、特許、意匠、商標、知財戦略、知財マネジメント、不正競争防止法

履修上の注意 / Notices 全8回のうち、6回以上出席していない場合は不可とする。

教科書 / Required Text

参考書 / Required Materials

教科書・参考書に関するその他通信欄 特許情報プラットフォームテキスト、プリント・スライド等を使用して講義する。

<参考書> 産業財産権標準テキスト 総合編（第5版）（発明推進協会）

<特許庁理系学生向け

> https://www.jpo.go.jp/resources/report/kyozai/rikoukei_shiryuu.html

成績評価の方法 / Evaluation	各回のショートレポート（75%）及び最後に課す理解度テスト（25%） 以上を2000点満点で評価し、1200点以上を合格とする。
関連科目 / Related course	
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	